

報道関係者各位

一般社団法人東京ビエンナーレ

無印良品、パルコなどの広告を手掛け、昨年文化功労賞を受賞したクリエイティブディレクター小池一子氏による「ジュエリーと街 ラーニング」参加者募集開始のお知らせ

この度、一般社団法人東京ビエンナーレ（東京都千代田区、代表中村政人）は、「東京ビエンナーレ2023」※のプロジェクトの一つとして、「ジュエリーと街 ラーニング」を開催いたします。今年いよいよ開催年を迎えた東京の地場に発する国際芸術祭「東京ビエンナーレ2023」。本リリースでは、日本のクリエイティブを黎明期から牽引してきた小池一子がクリエイティブディレクターを務めるリンケージ（※1）「ジュエリーと街 ラーニング」の開催と、その参加者募集の開始をお知らせいたします。



はじめに

ジュエリーや装身具は、人間に一番身近なクリエイションの一つであり、生活に身近なアート（art for living）であると言えるでしょう。一方で現在、ジュエリーを取り巻く環境は、石の枯渇、鉱山の閉鎖、石をめぐる紛争など多種多様な問題が起きており、私たちはいまいちどジュエリーへの向き合い方を考え直すべき過渡期を迎えています。

欧米では古くから根付く「ジュエリーを受け継ぐ」文化も、日本ではまだまだ日が浅く、実はジュエリーを持っていても身につけずにタンスにしまったままの人口が多いと言われます。とある調査によれば、日本の20～60代のジュエリー保有個数は平均10.4個。なかでも50～60代のジュエリー保有個数は13.7～14個と他の年代を上回り、多くのジュエリーを保有していることがわかります。しかし、使わなくなったジュエリーを「しまっておく」人も多

【お問い合わせ先】

一般社団法人 東京ビエンナーレ
〒101-0021 東京都千代田区外神田6丁目11-14 アーツ千代田3331内
TEL:03-5816-3220 FAX:03-5816-322 E-Mail: pr@tokyobiennale.jp
<https://tokyobiennale.jp/>

く、約半数にのぼる45.1%がタンスや棚にしまったままにしています。

ご家族から受け継いだ装飾品や、かつてご自身へのご褒美として購入したジュエリーなど、家に眠っている思い出の品を、「ジュエリーと街 ラーニング」で生まれ変わらせて、次世代へつないでいきませんか？



帯留めをリメイクしたブローチ

ジュエリーの街・御徒町

いまや宝飾品の街として知られる上野・御徒町のルーツは江戸時代まで遡り、徒歩組と呼ばれる下級武士が内職として象牙や珊瑚、銀などを使った仏具をつくっていたことに始まりです。明治の中頃には廃仏毀釈の流れにあって、これらの仏具屋は次第に小間物屋や自転車の組み立て工場と入れ替わり、第二次世界大戦後のモーターリゼーションの進化と共に自転車工場が姿を消すと、代わって米軍の兵士が時計やアクセサリーの売買を始めます。アメ横のバックヤードとして時計の修理と仲買の店が増えた御徒町が、名実ともにジュエリーの街となったのは、昭和30年（1955）から始まった高度経済成長後のこと。昭和40年代に入ってようやく、一般家庭でもジュエリーが広く買われるようになったことで、それまで副業的にジュエリーを取り扱っていた時計屋が本格的にジュエリー産業に乗り入れ、御徒町は次第にジュエリータウンとなっていくのです。



アフガニスタン人の兄弟が営むジュエリー・ショップ

「ジュエリーと街 ラーニング」について

御徒町から外神田の街並みにジュエリーの専門店とその職人を訪ね、貴金属や宝石の多様性を学びながら、家で眠っている古い装身具をコンテンポラリー・アクセサリーに生まれ変わらせたり、新たなアクセサリーをつくらしたりする。「ジュエリーと街 ラーニング」は全5回の講座とプログラムを通じて、参加者自身が行動し、学んで楽しむ参加型プロジェクトです。参加者が考えたアクセサリーのアイデアは、御徒町のジュエリー職人や東京藝術大学の学生など、多くの専門家がサポートして完成させます。

活動は2023年3月から段階的に進行し、完成品とその成果を「東京ビエンナーレ2023」において展示や発表することも予定しています。年代や経験問わず、広く参加者を募集いたしますので、オンライン事前説明会の動画をご覧の上、ぜひお申し込みください。



一力昭圭によるドローイング



御徒町でのリサーチの様子（一力昭圭、小池一子）

【お問い合わせ先】

一般社団法人 東京ビエンナーレ
〒101-0021 東京都千代田区外神田6丁目11-14 アーツ千代田3331内
TEL:03-5816-3220 FAX:03-5816-322 E-Mail: pr@tokyobiennale.jp
<https://tokyobiennale.jp/>

活動スケジュール

2/11(土)		オンライン事前説明会 *開催済・動画アーカイブあり (後述) エントリー開始
3/5(日)		エントリー締め切り
3/10(金)		参加者決定
3/22(水)	講座 1	ガイダンス (御徒町) 御徒町まち歩き
4/22(土)	講座 2	デザインづくり①+座学 (ゲスト)
5/20(土)	講座 3	デザインづくり②+座学 (minä perhonen 皆川明、橋本和幸)
5/21(日) ※予備日	講座3-2	デザインづくり②
6/10(土)	講座 4	職人さんとの相談会、制作の依頼
夏休み期間	各種プログラム	「東京ビエンナーレ2023」での成果発表展に向けた準備
9/16(土)	講座 5	完成披露会+講評
10月	各種プログラム	「東京ビエンナーレ2023」にて成果発表展を開催

参加条件

- ・上記活動スケジュールに示す、全5回の講座にご参加いただける方。
- ・関連各種プログラム（講演会、展示協力、展覧会運営など）に積極的にご参加いただける方。

参加者公募の概要

- [募集人数] 30名
 [締め切り] 2023年3月5日(日)
 [対象年齢] 高校生以上（未成年のご参加には、保護者の同意が必要となります）
 [主な活動エリア] 御徒町・上野（台東区）
 [講座費用] 5万円（税込）／1名
 ※主な内訳：ジュエリーデザイン原画作成費／ツアー経費／全5回の講座費用
- [上記以外にかかる費用]
- ・ジュエリー制作費（職人さんへ依頼）
素材や大きさなどにより異なります。
具体的な金額については、事前説明会の動画（後述）をご覧ください。
 - ・旅費（東京・御徒町エリアへの往復交通費、また必要な場合は宿泊費など）
 - ・遠方からのご参加の方には、連携宿泊先をご紹介できるよう調整中です。

【お問い合わせ先】

一般社団法人 東京ビエンナーレ
 〒101-0021 東京都千代田区外神田6丁目11-14 アーツ千代田3331内
 TEL:03-5816-3220 FAX:03-5816-322 E-Mail: pr@tokyobiennale.jp
<https://tokyobiennale.jp/>

オンライン事前説明会のご紹介

2月11日にオンラインによる事前説明会を開催しました。本プログラムへ参加ご希望の方は、下記リンクより動画をご覧いただいた後、動画内のフォームからご応募ください。

名称 「ジュエリーと街 ラーニング」 オンライン事前説明会

URL youtu.be/PUuR_wCJVSS



主催 一般社団法人東京ビエンナーレ

小池一子からのメッセージ

古来人々は生きることに喜びを見出し、その表現に自らの身体を飾るアクセサリーを作り出してきました。ある時は亡き愛する人への思いをこめ、ある時は母から娘への贈りものとして生まれる装身具もあります。かたちに現れる装身具の素は、貴石、宝石、金、銀などさまざまにありますが、それらを揃えるだけでなく、個人の好みにあわせてつくることを手助けしてくれる街があります。

台東区上野御徒町から外神田へ、さまざまに専門を極めつつ構えられた店、店、店のカウンターの内側の人々と、東京ビエンナーレを機会に何かをつくり出したい人々が出会うプロジェクトが始まります。

クリエイティブ・リンケージ・プロジェクトと名づけられた企画で、「つながりの創造」をよびかけます。

リンケージはまず、街・店の人とクライアント（依頼人）の出会いから生まれる横のつながりを生みます。そしてクライアントが、たとえば祖母の形見の指輪をペンダントにするという計画を持って参加されるなら、私たちはそこに縦のリンケージを発見することになります。ビエンナーレはクリエイティブな行動でさまざまな体験をする場でもあります。

アーティスト的な自己表現を、まず身近な装身具で作りだして、東京ビエンナーレという催事の参加者になりませんか？

東京ビエンナーレ 2023 は、東京の地場に根ざす美の祭典です。

* ご参考：以下、今回の活動についての対談記事もご覧いただけます。

「わたしのための装身具づくり」が生むつながり。

小池一子×一力昭圭「ジュエリーと街 ラーニング」始動対談

<https://note.com/tokyobiennale/>

プロジェクトメンバー



小池一子（クリエイティブディレクター）

1980年「無印良品」創設に携わり、以来アドバイザリーボードを務める。1983年にオルタナティブ・スペース「佐賀町エキジビット・スペース」を創設・主宰し、多くの現代美術家を国内外に紹介。東京ビエンナーレ 2020/2021 総合ディレクター。令和4年度文化功労者。



一力昭圭（チューター/ジュエリーデザイナー）

女子美術大学芸術学科造形学卒。WADA STUDIO (NY)、STUDIO JEWELLER (NY) 等で学んだ後、ACCENT ON DESIGN SHOW (NY)、LOOT SHOW (NY) などに出展。銀座松屋、AXIS (六本木)、MITATE (西麻布)、ギャラリーワッツ (青山)、CAJ (京都) その他で個展。



岩間賢（コーディネーター）

場と人の対話を生み出す作品や舞台、廃校や里山の再生をはじめとするアートプロジェクトなどを国内外で展開。「ジュエリーと街 ラーニング」では、小池一子のコーディネーターを務める。東京ビエンナーレ 2023 プロジェクトディレクター。



杉浦時斗（アシスタントディレクター）

多摩美術大学で芸術学を専攻後、2018年株式会社キチン入社、小池一子のアシスタントを務める。東京ビエンナーレ 2020/2021 のプロジェクト「Praying for Tokyo 東京に祈る」では、企画コーディネートを担当。

[協力] 橋本和幸（東京藝術大学デザイン科教授）、丸山素直（東京藝術大学デザイン科テクニカルインストラクター）

【お問い合わせ先】

一般社団法人 東京ビエンナーレ
〒101-0021 東京都千代田区外神田6丁目11-14 アーツ千代田3331内
TEL:03-5816-3220 FAX:03-5816-322 E-Mail: pr@tokyobiennale.jp
<https://tokyobiennale.jp/>

※1 **リンケージとは** 東京ビエンナーレ2023「リンケージ つながりをつくる」は、私たちと私たちのまわりの「リンケージ（つながり）」をとらえることをテーマとします。場所、時間、人、生物、植物、できごと、モノ、情報——私たちは、あらゆる存在が複雑に関係しながら、刻々と変容していく世界に生きています。なかでも、ここ東京は、非常に緻密な関係性によって織り上げられた社会だと言えるでしょう。東京の歴史、文化、地域と、またそれを支えている人たちと、新しくつながるには？ 新しいつながりをつくるには？ つながりを強くしたり、深めたりするには？ 現在のアートの社会的役割の一つは、社会環境に対して自由な視点で関係性を持つることにあるかもしれません。東京ビエンナーレ2023は、そんなアートのつながり力をもとに、参加者、来場者がそれぞれの「リンケージ（つながり）」を見だし、さらに新しいつながりが生まれ、広がっていく場となることを目指します。

東京ビエンナーレ2023とは

「リンケージ つながりをつくる」をテーマに、可視化できないつながりを人や土地、歴史、記憶、ものやことに見出し、新しい関係性をつくりだす活動を現在進行形でおこなう国際芸術祭。世界中から幅広いジャンルの作家やクリエイターが東京のまちに集結し、まちに深く入り込み、地域住民の方々と一緒に作り上げていく新しいタイプの芸術祭です。いよいよ今年夏から秋に会期本番を迎える「東京ビエンナーレ2023」では、これからいくつものリンケージ（つながり）が生まれていきます。

「東京ビエンナーレ2023」の計画を知り体験できるイベントとして、2022年10月6日から2023年2月28日まで開催された「東京ビエンナーレ はじまり展」。現在も、以下の場所で作品展示がつついております。お近くをお通りの際は、ぜひご覧ください。

詳細はウェブサイトへ <https://tokyobiennale.jp/>

・池田晶紀写真展 写真でつながる街と街～大手町・神田

会場 大手町川端緑道仮囲い（東京都千代田区大手町1-9）

・高橋臨太郎 Radius harps / After a typhoon

会場 東京ドームシティ（文京区後楽1-3-61）

Gallery AaMoと都営三田線水道橋駅A3出口をつなぐ通路